

中山間果樹産地における担い手確保と 経営発展への支援

県北農林事務所経営・普及部門

日立市西部の中里地区では、「日立中里フルーツ街道」においてリンゴやブドウなどの果物狩りを主体とした観光果樹経営が行われています。地域では集客のための産地PRや援農ボランティアの受入れに力を入れてきました。近年は、一層の高齢化による担い手不足や規模拡大の難しさに直面しており、当部門では担い手確保対策や所得向上のための規模拡大と早期成園化技術の導入を支援しました。

産地の現状把握と意向の把握

令和3～4年度に、JA常陸里川西特産果樹生産部会の全18戸を対象に、経営の現状や離農意向等に係るアンケートを実施しました。

その結果、産地の今後の課題は「規模拡大を志向する中核経営体への支援」や「担い手確保」であることが明確となり、その対応策について、部会や関係機関と協議する契機となりました。



写真1 部会臨時総会での課題の検討



写真2 基盤整備後の農地(写真左)と側枝が多数発生したフェザー苗*(写真右)

※フェザー苗：側枝となる枝を育苗段階で多数発生させ、結実を早めることができる育苗方法。

中核リンゴ経営体の規模拡大支援

中核経営体1戸に、基盤整備事業を活用した規模拡大(28a)と、新規農地の早期成園化につながるフェザー苗*の栽植を提案しました。当部門では、フェザー苗導入に向けて、苗の養成技術や栽植計画の作成支援を行うとともに、フェザー苗で規模拡大した場合の経営改善計画の作成支援(販売金額10%増)を行いました。その結果、基盤整備で畑地化された農地に、令和6年春、フェザー苗が栽植され、中核農家の規模拡大が実現できました。

産地の新たな担い手確保対策

部会役員の意見や他産地事例を参考に、「リンゴ・ブドウ塾」、「トレーニングファーム」、「担い手支援バンク」で構成する担い手受入れのためのフロー案を作成し、市に提案をしました。併せて関係機関と連携し、部会に研修受入れの意思確認を行いました。その結果、部会や市が中心となり、離農農地を継承する新規就農者を育てる「中里フルーツ塾」の開講が実現し、新規担い手の確保・育成の体制を作ることができました。令和6年には、離農予定であったブドウ園1戸において、経営継承により後継者を確保することができました。



写真3 中里フルーツ塾における園地継承者への剪定指導